

1 学校教育目標

人間尊重の精神に満ち よく考えて たくましく実践する 心情豊かな子どもの育成

2 目指す姿

<p>(1) 目指す子ども像</p> <p>ひろい心で助け合う子ども がんばり強く元気な子ども しごとを進んでする子ども</p>	<p>(2) 目指す学校像</p> <p>①個に応ずる指導を通して基礎学力の定着を図る学校 ②体験活動等を重視した豊かな心を育てる学校 ③健康に目を向け、より豊かな生活を希求する子を育てる学校 ④保護者・地域に信頼される学校</p>
--	--

3 目標、取組及び、その成果

<p>【中期経営重点目標】</p>	<p>(1)〈基礎学力の向上〉 授業展開の工夫・改善をし、わかりやすく意欲のわく授業づくりを行うとともに、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>(2)〈豊かな心の育成〉 社会性や道徳性を育み、豊かな心の育成を図る。</p> <p>(3)〈体力の向上〉 基本的生活習慣の定着を図り、児童の健康・体力づくりを推進する。</p> <p>(4)〈信頼される学校〉 学校における教育活動の情報を積極的に発信し、また保護者・地域の力を生かした学習の充実を図り、保護者・地域に信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>【(中間)評価】</p>	<p>昨年度より、教職員のベクトルを合わせやすくするために、重点化を図って進めている。(1)の領域では、校内研究会の充実あるいは個々の研究会・研修会への積極的な参加を図りながら、授業展開の工夫・改善を行ってきた。また全校で朝の学習タイムを計画通り実施し、基礎学力の補充を行ったり、あるいは、スピーチタイムを計画的に、実施したりした。また家庭学習の習慣化も図っている。しかし、基礎・基本の確実な定着は十分ではない。(2)の領域においては、本年度は新しく縦割りグループ(異年齢集団)での活動を通して、心の成長を促す取組を行ってきた。さらなる取組の工夫をし成果をあげる必要がある。(3)の領域では、今後も指導法等の工夫改善を行い、保護者と連携しながら、基本的生活習慣の確立や体力の向上を推進していきたい。</p>		
<p>領域</p>	<p>短期経営重点目標</p>	<p>評価結果【成果指標】</p>	<p>主な具体的方策</p>	<p>実施状況【努力指標】</p>	<p>分析(○) 改善策(●) 支援要望(◇)</p>
<p>基礎学力の向上</p>	<p>家庭学習の習慣化が定着しておらず、また学力調査においては、基礎・基本の定着が十分図られていないことから、家庭学習の習慣化を促しながら、基礎学力の向上を図る。</p> <p>また、本校の研究主題と関連させ、表現力(話す力)を育成する取組を日々計画的に行う。</p>	<p>①家庭学習振り返りカードで家庭学習の時間が増えたと答えた児童は58%(児童アンケート)、また我が子が本年度、家庭学習の習慣が身に付いてきていると感じている保護者が78%(保護者アンケート)であった。児童及び保護者アンケートの平均値は68%であった。【3】</p> <p>②人の前で話す力が伸びてきたと思う児童は、63%であった。(児童アンケート)【3】</p>	<p>①定期的に年3回(6・9・11月)本校独自の「家庭学習ふりかえりカード」を作成・活用することにより、保護者との連携を進め、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>②「お話タイム(スピーチタイム)」を計画的に実施し、表現力(話す力)を育成する。 ※お話タイム(スピーチタイム)→各学級で週当たり4/5回のペースで行う。</p>	<p>①全学級が計画通り、定期的に、年3回(6・9・11月)→1回につき2週間継続)「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。【4】</p> <p>②全学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施した。【4】</p>	<p>○児童及び保護者アンケート結果からは、家庭学習の時間が増えたという意識の児童が約6割、家庭学習の習慣が身に付いてきていると感じている保護者は約8割で、目標としていた数値まで至っていないが、振り返りカードを活用した成果がうかがえる。また、振り返りカードがある時は、ほとんどの児童が家庭学習を行っていた。</p> <p>●家庭学習振り返りカードの実施時期・実施回数・記録方法・確認方法・保護者との連携方法及び、家庭学習の啓発等について工夫を行い、その成果をあげる。</p> <p>○人の前で話す力が伸びてきたと思う児童は全体では63%であるが、学年によりかなりバラつきがあり、高学年が特に低い。(1年→80%・2年→71%・3年→80%・4年→65%・5年→45%・6年→51%)</p> <p>●単に、スピーチタイムを設定するだけでなく、学年(発達段階)や個に応じた工夫(年間計画に基づくテーマ設定・ペアトークあるいはグループトーク・メモ等の手立て等)が必要である。また話しやすく、安心できる雰囲気作りのための学級経営が、基盤となることを自覚して、日々取り組むことが重要である。</p>
<p>豊かな心の育成</p>	<p>あいさつやそうじの仕方に課題がある。自主的にあいさつやそうじができる児童を育成する。</p> <p>また、縦割りグループでの活動を仕組み、望ましい人間関係づくりを図る。</p>	<p>①進んであいさつをしないと答えた児童は55%であり、6割に達していない。(生活チェックカード)【1】</p> <p>②「東っ子タイム」でちがう学年の人と楽しく遊ぶことができたと思えた児童は68%であった。(児童アンケート)【2】</p> <p>③時間いっぱい進んでそうじをしていると答えた児童は55%であり、6割に達していない。(生活チェックカード)【1】</p>	<p>①あいさつ運動に毎月取り組む。</p> <p>②縦割りグループで毎月1回(年9回)外遊び(東っ子タイム)を行う。 ※体力の向上とリンク</p> <p>③そうじの仕方を明確にして、生活チェックカードで振り返りをさせながら、進める。</p>	<p>①児童会役員と5・6年は2回ずつ、1～4年は1回ずつ「あいさつ当番」を作り、全学級が計画通り行った。【4】</p> <p>②インフルエンザ感染予防のため、延期した月もあったが、計画通り年9回縦割りグループで外遊びを実施した。【4】</p> <p>③全学級の担任が、そうじ場所に応じた指導を毎日行った。【4】</p>	<p>○82%の保護者が、あいさつできる子に育ってきていると感じている反面、生活チェックカードからの分析では、進んであいさつをしたと答える児童の割合は55%で、その意識にギャップがある。これは生活チェックカードでは、◎が週3つ以上の割合で評価・集計していることも起因していると思われる。</p> <p>●生活チェックカードの評価方法を再検討する必要がある。また、各クラスでの継続した指導も必要である。</p> <p>○「東っ子タイム」についての児童アンケート結果からは、比較的下学年は楽しく遊んでいるようだが(1～3年の平均値→81%【4】)上学年に課題がうかがわれる。(4～6年の平均値→59%【1】)</p> <p>●活動場所を広げたり、遊び方の決め方を6年生に指導したりするとよい。(4～6年に順番に遊びの決定をさせる方法もある)縦割りグループでのリーダー性を育てる視点が大切である。また、遊び方、集合場所等は、事前に画用紙に書いて集合し、相当学年が説明して遊びをスタートさせるなどの方法も、工夫していく必要がある。</p>
<p>体力の向上</p>	<p>基本的生活習慣の定着や、外遊びへの積極的な参加が課題であることから、自分の生活を振り返らせたり、継続的な運動を促したりすることにより、生活習慣の確立や体力の向上を推進する。</p>	<p>①健康チェックカードの分析により、健康的な生活を送るように意識付いたと思われる児童が75%であった。【3】</p> <p>②課題である柔軟性(長座体前屈)・持久力(シャトルラン)の2回目(2月)の結果は、柔軟性が67%、持久力が43%の児童が6月の測定値を上回った。 ※(67%+43%)÷2=55%【1】</p> <p>③健康チェックカードを分析すると「毎日外遊びをした」と答えた児童は61%であった。※「毎日」=「よく」と指標を設定すると【2】。なお、保護者アンケートからは、我が子がよく外で遊んだり、スポーツをするようになってきていると肯定的に思っている割合は79%であった。</p>	<p>①児童の生活状況を把握(健康チェックカード)し、保護者にも知らせ、課題に応じた指導を継続的に行う。 ※継続的→健康チェックカードは4・9・2月に実施するため、「継続的な指導」とは、年3回以上の指導とする。</p> <p>②運動能力調査結果に基づいて課題を明らかにし、教科体育の準備運動等の中で継続的に取り組む。 ※継続的→週に1回以上のペース</p> <p>③外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行い、体力の向上を図る。※外遊びを奨励→ ○週1回以上のクラス遊び ○長縄跳び大会の実施 ○東っ子タイム(評価は豊かな心の育成で)</p>	<p>①全学級が課題に応じた指導を継続的に年3回(4・9・2月)「健康チェックカード」で児童の実態を把握して、指導を行った。なお、1月は養護教諭による保健指導(基本的生活習慣について)を全学級で行った。【4】</p> <p>②前期は、11/12(92%)の学級、後期は、全学級が本校の課題であった柔軟性・持久力を高める運動を教科体育で、週1回以上取り組んだ。【3】</p> <p>③前期は、10/12(83%)の学級、後期は、全学級が外遊びの奨励(週1回以上のクラス遊び)を行った。【2】</p>	<p>○75%という数値は、児童アンケート結果及び、保護者アンケート結果からの分析とさほど大きなギャップはなかった。手洗い・うがいについては、インフルエンザの影響もあり、どの学年も意識が高まっている。</p> <p>●基本的生活習慣についての保健指導を行ったが、時期的な面を考慮して、来年度も効果があがるように努めたい。また、教師自身の意識をさらに高める一方、保護者の理解・協力を促すことも重要である。</p> <p>○6月と2月のデータを比較したが、2月は寒く同じ条件下での測定値ではなく単純に比較はできないが、日頃の取組の成果は、ある程度出せたと思われる。また、柔軟性の伸びに比較すると、持久力の伸びが低かった。</p> <p>●児童一人ひとりが目標を持って、体力テストに取り組めるような個人記録簿を作成したり、課題となる力を伸ばすための具体的な運動について、教職員全体で研修を行い、日々の指導に生かしていったりする。</p> <p>○健康チェックカードの分析からは、4月・9月・2月と集計をとるごとに、「毎日外で遊んでいない。」と答える児童の割合が増えていた。9月は猛暑の、2月は寒さやインフルエンザによる学級・学年閉鎖のための補修等の影響を受けているように思われる。また、3回の集計・分析結果から、外遊びに消極的な児童の固定化が見られる。</p> <p>●具体的な外遊びの資料(ex.スポーツ振興会の資料)をもとに、教職員の研修を行ったり、遊びの紹介を校内テレビで紹介したり、遊びの紹介プリントを各クラスに配付したりして、教師間の情報を共有しながら、児童の遊びの輪を広げていく。また、外遊びに消極的な児童への個別的な配慮も必要である。</p> <p>○年度当初は、延べ130人以上の外部人材(保護者含む)の活用を目指していたが、多大な協力を得ることもでき、延べ200人以上活用することができた。その成果指標も【4】で、約8割の児童が楽しく学習できたと答え、目標としていた成果が出ているが、残りの2割の児童に課題が残る。</p> <p>●今後も、継続して学習活動に外部人材を積極的に活用する一方、特色ある学校づくりを進めていきたい。</p>
<p>信頼される学校</p>	<p>地域には、保護者も含め、ボランティア意識の高い方がいる。こうした方を含め、広く外部人材を積極的に活用することが教育活動の活性化にとって必要であり、そのことが信頼される学校づくりにつながっていくと考える。</p> <p>これら外部人材を積極的に学習活動等に活用しながら、地域に根ざした開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>○外部人材を活用した学習は楽しく学習できたと思う児童が82%であった。【4】(児童アンケート)</p>	<p>○外部人材(保護者含む)の積極的活用を行い、学習活動等に生かす。(※学校日より、学年日より、保健日より、給食日よりはこれまで通り、計画的に保護者に配付する。)</p>	<p>○インフルエンザ感染予防のため、中止にしたものもあったが、計画以上のものもあり、外部人材(保護者を含む)を延べ213人活用することができた。【4】</p>	<p>○年度当初は、延べ130人以上の外部人材(保護者含む)の活用を目指していたが、多大な協力を得ることもでき、延べ200人以上活用することができた。その成果指標も【4】で、約8割の児童が楽しく学習できたと答え、目標としていた成果が出ているが、残りの2割の児童に課題が残る。</p> <p>●今後も、継続して学習活動に外部人材を積極的に活用する一方、特色ある学校づくりを進めていきたい。</p>

※実施状況の【努力指標】とは、教職員の取り組みに関して、本校独自で4段階に指標を設定したものです。その指標に基づいて評価した数値が【 】内に示されています。
 ※評価結果の【成果指標】とは、主に取り組みの結果、どのように子どもたちが変容したかをみるために、本校独自で4段階に指標を設定したものです。その指標に基づいて評価した数値が【 】内に示されています。